

平成 23 年度医学医療系登録研究グループ申請書

2012.5.28

| | | | |
|--------------------------|--|---|---|
| 1.申請者 (代表者) | 所属・職 | 医学医療系・教授 | |
| | ふりがな 氏名 | まつだ 松田 ひとみ | |
| | 連絡先 | TEL:029-853-3442 e-mail: hitomim@md.tsukuba.ac.jp | |
| 2.登録研究グループ名称 (英訳名) | 高齢者睡眠ケアと福祉医療学研究グループ (Gerontological human caring & Medical welfare) | | |
| 研究分野及び キーワード | 研究分野:(医歯薬学) キーワード:(高齢者)(ナラティブ睡眠ケア)(福祉医療) | | |
| 3.組織(中核教員には氏名の前に*印を記載) | | | |
| ふりがな 氏名(年齢) | 所属部局・職名 | 分野 | 役割分担 |
| (申請代表者) まつだ *松田ひとみ | 医学医療系・教授 | 高齢者ケアリング学 | 研究の総括 ナラティブ・ケア介入と 効果測定・評価 介護家族評価 |
| 橋爪祐美 | 医学医療系・准教授 | 高齢者ケアリング学 | 特定高齢者の生活リ ズム調査・解析と介入 評価 |
| おくのじゅんこ *奥野純子 | 医学医療系・非常勤 研究員 | 高齢者ケアリング学 | 骨粗鬆症と転倒に関 する調査解析 |
| やなぎ ひさこ *柳 久子 | 医学医療系・准教授 | 福祉医療学 | 高齢者の精神機能の 測定と評価 |
| もりたのぶあき *森田展彰 | 医学医療系・准教授 | 精神保健学 | 台湾の高齢者の生活 環境分析 |
| いちかわまさお *市川政雄 | 医学医療系・教授 | 国際社会医学 | 糖代謝と運動療法 |
| *田中喜代治 | 体育系・教授 | スポーツ医学 | 高齢者の体力評価 |
| おかもと のりこ 岡本 紀子 | 帝京科学大学 講師 | 高齢者ケアリング学 | 在宅生活高齢者の生 活リズム調査・解析と 介入による効果測定・ 評価 |

4.研究プロジェクト計画の概要(1000 字以内)

本グループは、高齢者とその家族の幸福と健康生活の実現を意図した支援方法を探求し開発するための研究プロジェクトである。具体的には、第一に介護予防の観点から、高齢者の生活リズムの変調を改善するために、会話交流による自律神経系の変動を活用したナラティブ睡眠ケアの開発を行う。第二に、生活習慣病のある高齢者や特定高齢者を対象として、生活習慣病の危険因子(遺伝素因・環境要因)を捉えると共に、サーカディアンリズム、自律神経系、血圧および糖代謝等の変動を測定し、睡眠の質に影響を及ぼす要因を明らかにする。第三に、介護家族を対象とした生活リズムの変調と問題要因を抽出し、介護負担を軽減するための具体的な生活支援方法と保健医療福祉に関する課題を明らかにする。

5.研究プロジェクト計画の概念図

1)ナラティブ睡眠ケアの開発:

ナラティブ・ケア + 睡眠ケア → 「ナラティブ睡眠ケア」

<効果測定>

生理学的睡眠測定

- ・ HRV、睡眠活動計
- ・ 心拍・血圧連続計測
- ・ メラトニン、セロトニン

オージオメーター

睡眠日誌

主観的満足感、他

<研究の成果>

- 1.高齢者のための5分間の確保と会話交流ネットワークの増加
2. 夜間睡眠の質の向上
(話相手ボランティアの活用、参加者増加)
- ・ 睡眠潜時の短縮(LF/HFの抑制、体温の低下)
- ・ 睡眠段階1(浅い睡眠)の増加を減少へ
- ・ 睡眠段階3・4(深い睡眠)の減少を増加へ
3. 主観的満足感(HF増加)、社会的適応度、自信度の向上
4. ケアの普及拡大
(家庭内、医療機関、福祉施設、近隣住民等が採用)
4. 介護予防のための具体策の提示

2)生活習慣病及び特定高齢者への介護予防プログラムの開発:

3)介護家族の生活リズムの変調と介護負担を軽減・改善するための支援方法の開発